

エコプラザ(仮称)検討市民会議まとめ(案)

平成 30 年 8 月

目 次

本編

- 0. はじめに
- 1. エコプラザ（仮称）と「ごみ処理施設（都市計画決定）」
- 3. エコプラザ（仮称）の理念
- 4. エコプラザ（仮称）の機能と活動の場
- 4. エコプラザ（仮称）の機能と空間利用
- 5. エコプラザ（仮称）運営のポイント

議論のあゆみ編

- 1 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議における検討の位置づけ
- 2 エコプラザ（仮称）の基本理念
- 3 エコプラザ（仮称）のもつ機能
- 4 エコプラザ（仮称）の管理運営

資料編 1 ～参考資料

- ア SDG s
- イ ニュースレター

資料編 2 ～検討経過

- ア 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議開催経過
- イ 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議委員名簿
- ウ 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議資料

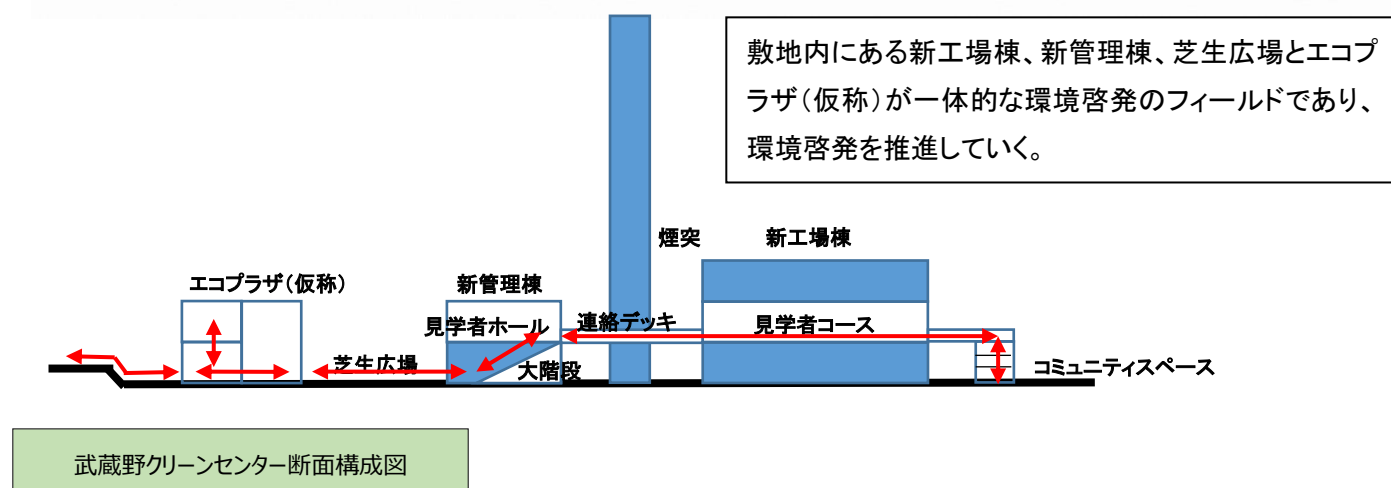
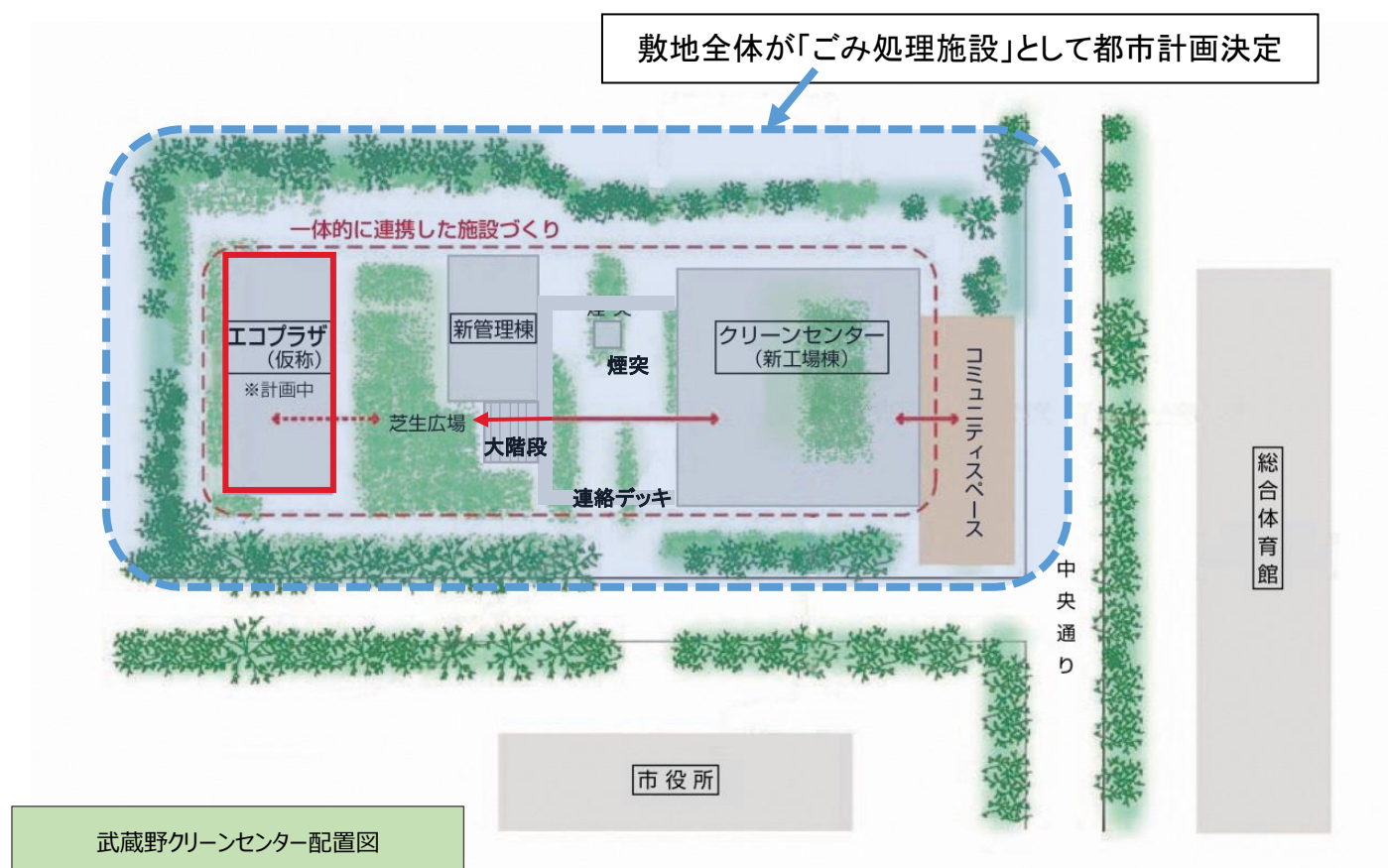
はじめに

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（以下「市民会議」という。）は、平成 29 年 2 月から 16 回にわたって、武蔵野市エコプラザ（仮称）（以下「エコプラザ（仮称）」という。）のあり方について議論を重ねてきた。市民会議では、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会における 4 期にわたる議論の成果である、「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」を基礎として、全市的な視点で議論を行ってきた。この「検討のまとめ」は、市民会議の議論の結果を取りまとめた

委員長コメント

1. エコプラザ（仮称）と「ごみ処理施設（都市計画決定）」

「武蔵野クリーンセンター」は昭和 59（1984）年旧工場棟稼働以来、本市のごみ処理を担ってきた。平成 29（2017）年 4 月に更なる技術進化による高度なごみ処理と廃熱エネルギー利用を実現した新工場棟が本稼働した。クリーンセンター敷地は「ごみ処理施設」として都市計画決定されており、このことは近隣住民の方々の理解を得て、市民生活に欠かせないごみ処理が担保されていることを意味する。そのため、新工場棟は安全・安心のごみ処理を担い、また見学者コースでごみ処理が見て学べる。そしてエコプラザ（仮称）（旧事務所棟と旧プラットホームを残置、改修）は「ごみ処理施設」の付帯施設として、市民一人一人がごみや環境のトピックを通じて、日常生活と環境問題との多様な接点やつながり・関係性などをより深く考え、学び、行動することにより、SDG s の実現を目指す高次な環境啓発施設として平成 32 年度中に開設を目指している。



2. エコプラザ（仮称）の理念

市民会議では「エコプラザ（仮称）の基本理念」、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」、「エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方」、「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」について、高度な議論を重ね、以下のとおり体系化した。*** 詳細、用語の定義は「議論のあゆみ編」を参照**

【エコプラザ（仮称）の基本理念】

ア コンセプト

共創による未来に誇れる場づくり

～みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ～

<4つのキーワード>

「共」…すべての人、団体、事業者、行政が、共に参加する。

「創」…既にあるものと関わらず、柔軟に新しい価値を創り出す。

「子ども・未来」…持続可能な環境を子どもたちの未来に引継いでいくため、大人が責任をもつ。

「場」…人、知恵、情報が集い、交流することができる場をつくる。

【エコプラザ（仮称）が目指すもの】

SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする、17 の国際目標である。

エコプラザ（仮称）では、これら SDGs の実現を念頭に置いて事業を実施する。例えば再生エネルギーの普及、省エネルギー化、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の分野の活動を通して、環境にやさしい魅力的な地域づくりを目指す。

【エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方】

(1) リスペクト

エコプラザ（仮称）では、新旧クリーンセンター建設の歴史をはじめとする、これまでの武蔵野市における様々な環境に対する取り組みの歴史、議論とその成果、それに関わった人々の思い、さらに現在・将来の取り組みを共有していく。

(2) 市民参加

エコプラザ（仮称）では、創造的な成果が生まれるよう、市民（狭義の市民のみならず、在勤・在学する個人、NPO 等の団体、民間事業者を含む）の参加によって事業を展開する。

(3) コレクティブインパクト

エコプラザ（仮称）では、コレクティブインパクトの手法を生かして様々な主体の力を集め、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」の実現を図る。

(4) メタボリズム（**進化しながら磨く**）

エコプラザ（仮称）の活動では、メタボリズムの考え方を踏まえて、今を完成形とは考えず、時代の変化やニーズ、価値観の変化に合わせて人も施設も学び合い、常に育ち続けていく。

(5) ゼロウェイスト

エコプラザ（仮称）の原点は、武蔵野市のごみ問題にある。この歴史を忘れず、武蔵野クリーンセンターと連携して、焼却や埋め立てなどによる資源の無駄遣いを抑えるとともに、そもそもごみを出さない社会の仕組みへの転換を目指して、地域、まちを変えていく。

【エコプラザ（仮称）の基本的な方向性】

(1) 低炭素モデルの実現

平成 27 年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」における、世界共通の長期目標「産業革命前からの地球の平均気温上昇を 2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追及する」こと、また国が地球温暖化対策計画に掲げる「温室効果ガス排出量を 2030 年度において、2013 年度比 26.0%減（2005 年度比 25.4%減）の水準にする」ことを目指し、武蔵野市が低炭素モデル地域となるよう、環境にやさしい行動を働きかけていく。

(2) 地域力の向上

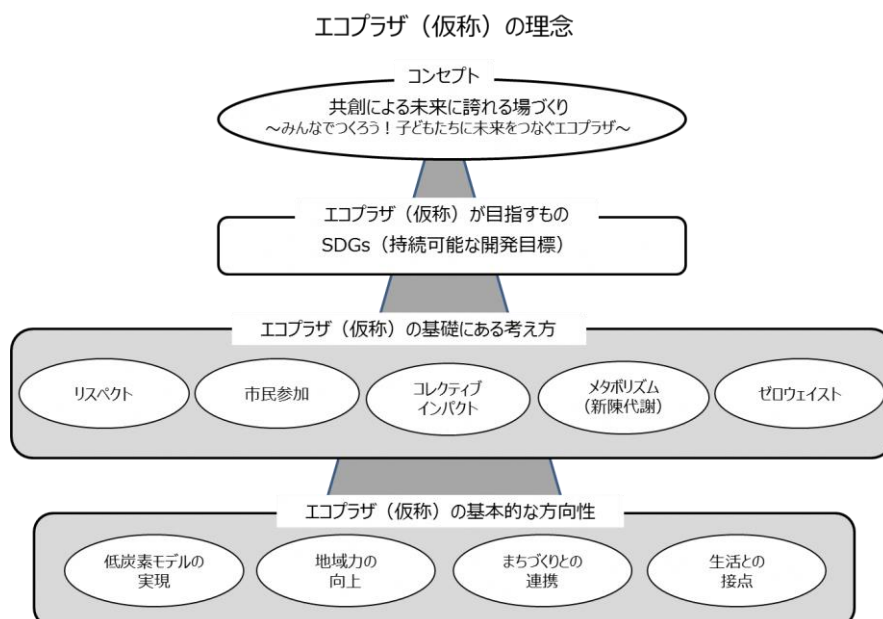
エコプラザ（仮称）の活動を出発点として、近隣、団地、学校、コミュニティ、商店街など様々な単位で、みんなが環境のことを考え、行動する地域づくりを広めていく。そして、地域の取り組みをつなぎ、広げて、地域の力をさらにまち全体に広めていく。

(3) まちづくりとの連携

エコプラザ（仮称）の施設は、緑や景観に配慮し、周辺環境と調和した施設とする。同時にバリアフリー化などを進めることにより、周辺地域と一体となって、より良いまちづくりを目指していく。

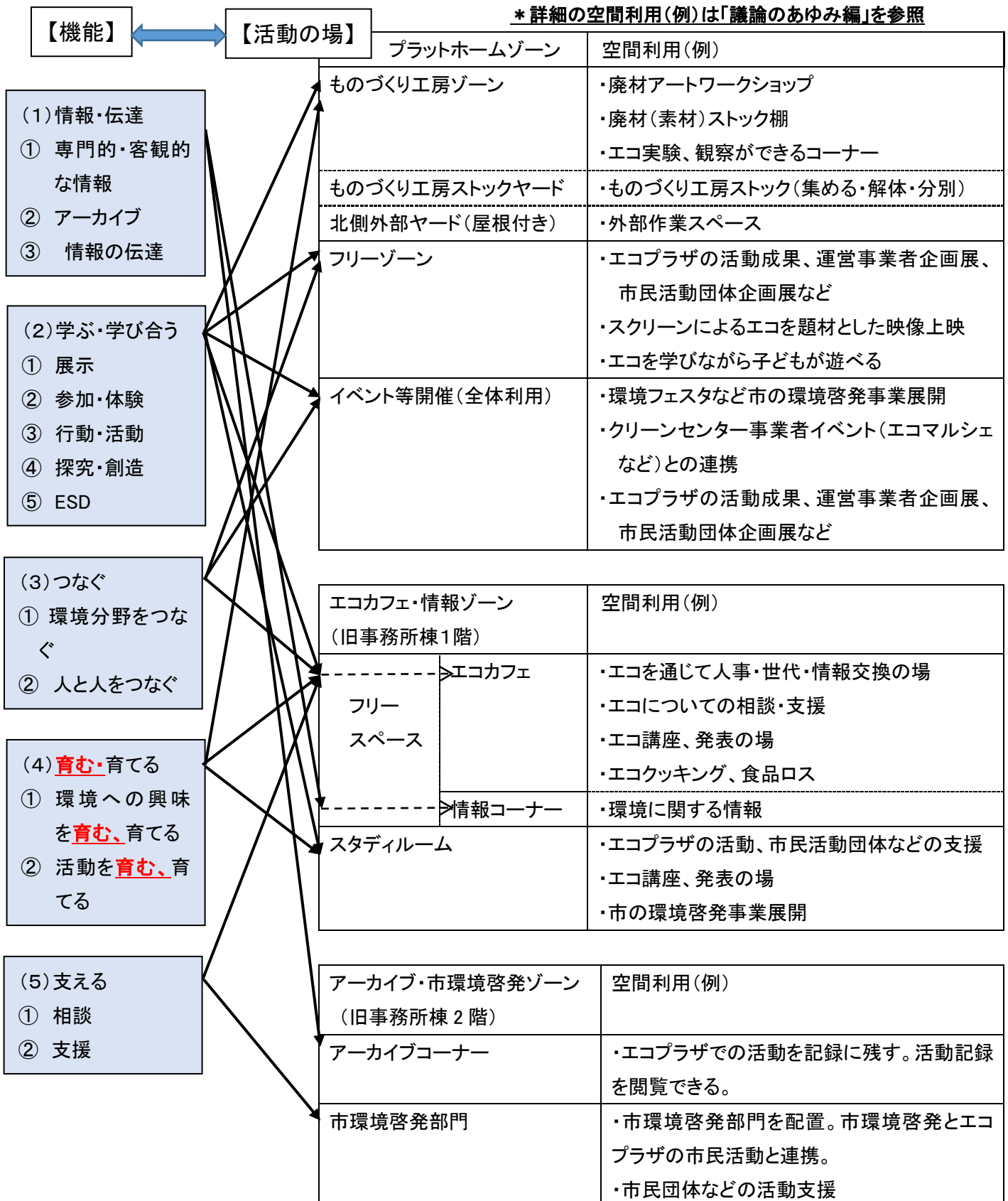
(4) 生活・地域との接点

一人一人が地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の存在と本質を知る必要がある。そのためにはまず、日々の暮らし・地域と環境の接点・つながりなどを知ることから始めて、それが共感や行動へとつながるよう促していく。



3. エコプラザ（仮称）機能と活動の場

エコプラザ（仮称）の理念を実行するため、機能として「情報・伝達」、「学ぶ・学び合う」、「つなぐ」「育てる・育む・共感する」、「支える」があり、これらの機能を展開する活動の場（ゾーン）がある。



4. エコプラザ（仮称）の機能と空間利用

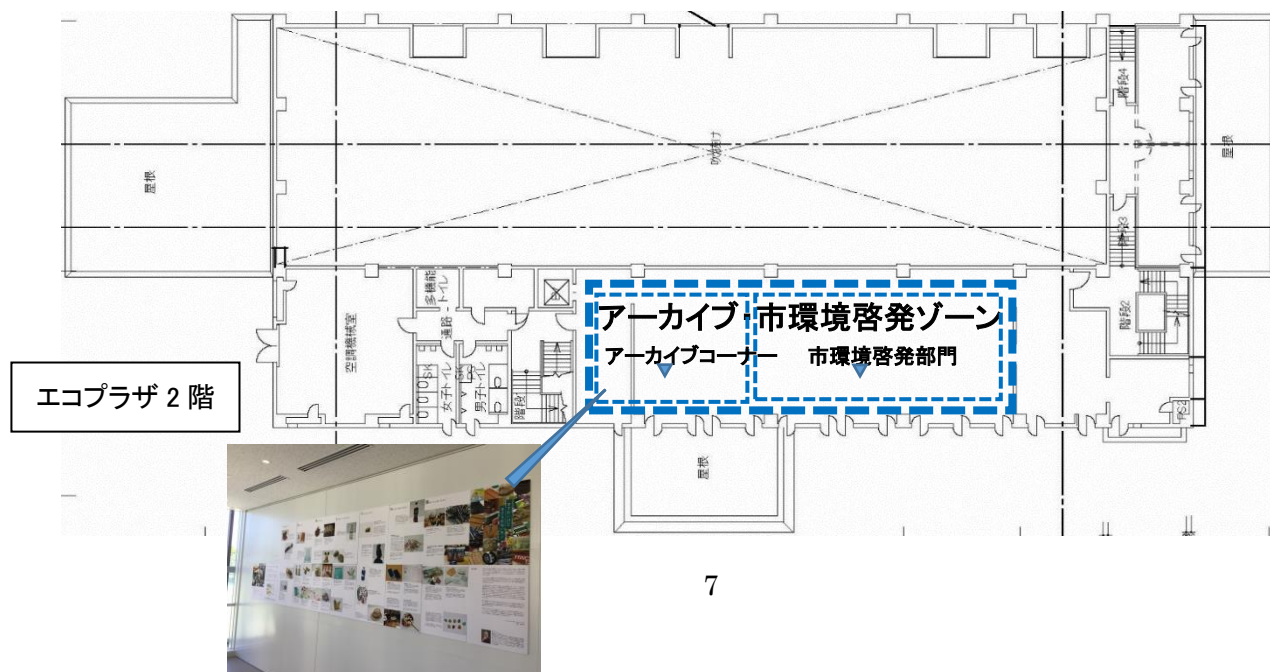
（1）エコプラザ（仮称）1 階の機能と空間利用

- ・プラットホームゾーンは機能面では通常、ものづくり工房ゾーンとフリーゾーンに使い分け、イベント等の開催においては全体を使用できるフレキシブルな利用を想定する。
- ・エコカフェ・情報ゾーン（旧事務所棟1階）は、エコカフェと情報コーナーが一体的な一つの空間にあり、その裏にスタディールーム、運営スペースがある。多目的トイレ、授乳室を完備する。



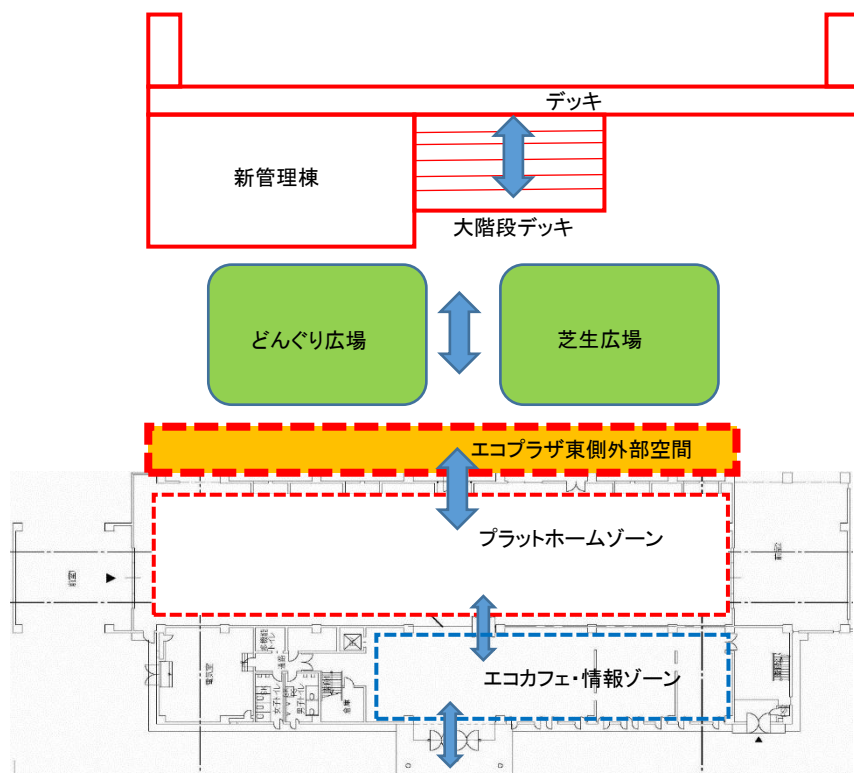
（2）エコプラザ（仮称）2 階の機能と空間利用

- ・アーカイブ・市環境啓発ゾーン（旧事務所棟2階）はアーカイブコーナーと市環境啓発部門で構成する。



（３）プラットホームゾーンと東側外部空間との関係性

- ・プラットホームゾーン東側外部は芝生広場、クリーンセンター大階段デッキと連続しており、東側外部空間もエコプラザのフィールドとなる。またプラットホームゾーンと東側外部空間とも連続している。
- ・東側外部空間では外部デッキを整備し、緑を感じる憩いの場となる。
- ・緑、水循環、エネルギーが東側外部空間で体感できる仕組みをつくる。



５．エコプラザ（仮称）運営のポイント

エコプラザ（仮称）の運営に携わる者には、施設の目的に合った資質が求められる。中でもとくに次の資質は重要である。

① お互いに顔が見える関係の構築

エコプラザ（仮称）においては、利用者と運営者の信頼関係が不可欠である。利用者との信頼関係を築くためには、普段から個性の見える一人の人間として利用者に接し、お互いが顔なじみになるような関係を築くことができる資質が必要である。

② しっかりと耳を傾けて聴く姿勢

エコプラザ（仮称）の重要な機能として、利用者からの環境問題や環境活動に関する質問、意見、相談に対応することがある。このときに、しっかりと利用者に寄り添い、真摯に耳を傾ける姿勢をもって対応できる資質が必要である。

③ エコプラザ（仮称）の「顔」

上記２項目の資質を表す象徴として、施設の「顔」となる存在があることが望ましい。突然にそのような人材が現れるわけではないので、運営者一人一人が施設の「顔」となる意識をもつとともに、運営を続けていく中でそのような人材を発掘、育成していくことも必要である。

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議まとめ（案）
議論のあゆみ編

1 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議における検討の位置づけ

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（以下「市民会議」という。）は、平成 29 年 2 月から 16 回にわたって、武蔵野市エコプラザ（仮称）（以下「エコプラザ（仮称）」という。）のあり方について議論を重ねてきた。市民会議では、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会における 4 期にわたる議論の成果である、「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」を基礎として、全市的な視点で議論を行ってきた。この「検討のまとめ」は、市民会議の議論の結果を取りまとめたものである。

2 エコプラザ（仮称）の基本理念

ア コンセプト

共創による未来に誇れる場づくり

～みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ～

<4つのキーワード>

「共」…すべての人、団体、事業者、行政が、共に参加する。

「創」…既にあるものにとらわれず、柔軟に新しい価値を創り出す。

「子ども・未来」…持続可能な環境を子どもたちの未来に引継いでいくため、大人が責任をもつ。

「場」…人、知恵、情報が集い、交流することができる場をつくる。

イ エコプラザ（仮称）が目指すもの

(1) エコプラザ（仮称）とは

地球温暖化を背景に、市民参加型の環境啓発施設として、日常生活と多様な環境問題との接点やつながり・関係性などをわかりやすく説明し、市民一人一人の環境にやさしい行動を促す施設である。

(2) SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする、17 の国際目標である。

SDGs は次の 17 の分野について、目標を掲げている。

①貧困、②飢餓、③保健、④教育、⑤ジェンダー、⑥水・衛生、⑦エネルギー、⑧成長・雇用
⑨イノベーション、⑩不平等、⑪都市、⑫生産・消費、⑬気候変動、⑭海洋資源、⑮陸上資源
⑯平和、⑰実施手段

※目標の詳細は資料編 1 参考資料①を参照

環境省ホームページでは、17 の SDGs の目標のうち、環境に関連している目標として、次の 12 項目を挙げている。

食料安全保障、健康、質の高い教育、水・衛生、エネルギー、持続可能な経済成長、工業化・イノベーション、都市、持続可能な消費と生産、気候変動、海洋、陸域生態系・森林管理・砂漠化への対処・生物多様性

エコプラザ（仮称）では、これら SDGs の実現を念頭に置いて事業を実施する。例えば再生エネルギーの普及、省エネルギー化、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の分野の活動を通して、環境にやさしい魅力的な地域づくりを目指す。

ウ エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方

(1) リスペクト

エコプラザ（仮称）では、新旧クリーンセンター建設の歴史をはじめとする、これまでの武蔵野市における様々な環境に対する取り組みの歴史、議論とその成果、それに関わった人々の思い、さらに現在・将来の取り組みを共有していく。

<武蔵野市の環境の歴史>

武蔵野市の歴史においては、環境に対する代表的な取り組みとして、緑の保全・育成と、ごみ減量・リサイクルが重要である。

緑については、昭和 48 年に「武蔵野市民緑の憲章」を定め、「ふるき武蔵野の緑をまもり、今日ある緑をそだて、新しい武蔵野の緑をつくりだしていく」決意を示した。この憲章の意志を受け継ぎ、計画的に緑の保全・育成の取り組みが行われている。

ごみ減量・リサイクルについては、昭和 45 年に三鷹市内の焼却場での武蔵野市・三鷹市のごみの共同処理が問題となり、地域住民による武蔵野市のごみ搬入阻止に至った。この状況を受けて、武蔵野市は昭和 53 年 1 月に古紙、9 月に空き缶類・空きびん類の分別を開始した。

同時に、市内への焼却場設置が必要となり、徹底した市民参加による議論の結果、昭和 59 年に旧武蔵野クリーンセンターが設置された。旧武蔵野クリーンセンターの更新を迎え、改めて市民参加によって市内への焼却場設置を議論し、その結果現在の新武蔵野クリーンセンターが建設された。旧武蔵野クリーンセンターは、エコプラザ（仮称）としてその一部を残すことになる。

(2) 市民参加

エコプラザ（仮称）では、創造的な成果が生まれるよう、市民（狭義の市民のみならず、在勤・在学する個人、NPO 等の団体、民間事業者を含む）の参加によって事業を展開する。

<武蔵野市の市民参加>

昭和 46 年策定の「武蔵野市長期計画（第一次）」において行われた、市民参加による計画策定＝武蔵野市方式以来、対話と交流を通して各種計画が策定され、施策が実施されてきた。この考え方は、新・旧武蔵野クリーンセンター建設においても同様であり、今後も変わらない方向性である。

(3) コレクティブインパクト

エコプラザ（仮称）では、コレクティブインパクトの手法を生かして様々な主体の力を集め、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」の実現を図る。

<コレクティブインパクト>

コレクティブインパクトとは、市民、行政、民間事業者、NPO 等が、異なる立場を超えて、互いに強みやノウハウを持ち寄ることで、社会の課題解決を図ることをいう。

また、コレクティブインパクトの実現に必要な要素には、次の5項目がある。

- ① **共通の計画**…課題や課題解決の手法に関する方向性を参加者で共有すること。
- ② **評価システムの共有**…取組全体と個々の取組を評価するシステムを参加者で共有すること。
- ③ **活動の相互補完**…参加者が行動を同じくするのではなく、個々の行動計画を実行し、得意分野を生かすことで補完しあうこと。
- ④ **継続的なコミュニケーション**…参加者間で信頼を構築するために継続的なコミュニケーションを図ること。
- ⑤ **活動を支える組織**…活動全体を支える組織があること。

出典：和光市広沢複合施設整備・運営事業コレクティブインパクト・リスト作成要領（埼玉県和光市）

(4) メタボリズム（新陳代謝）

エコプラザ（仮称）の活動では、メタボリズムの考え方を踏まえて、今を完成形とは考えず、時代の変化やニーズ、価値観の変化に合わせて人も施設も学び合い、常に育ち続けていく。

<メタボリズム>

メタボリズムとは、もともと新陳代謝を意味する用語であるが、転じて人口の増大と技術の発展に呼応して更新される都市の成長を説く建築運動を意味するようになった。

出典：WEB 版『建築討論』（<http://turon.aij.or.jp/2017/06/3954>）

(5) ゼロウェイスト

エコプラザ（仮称）の原点は、武蔵野市のごみ問題にある。この歴史を忘れず、武蔵野クリーンセンターと連携して、焼却や埋め立てなどによる資源の無駄遣いを抑えるとともに、そもそもごみを出さない社会の仕組みへの転換を目指して、地域、まちを変えていく。

エ エコプラザ（仮称）の基本的な方向性

(1) 低炭素モデルの実現

平成 27 年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」における、世界共通の長期目標「産業革命前からの地球の平均気温上昇を 2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追及する」こと、また国が地球温暖化対策計画に掲げる「温室効果ガス排出量を 2030 年度において、2013 年度比 26.0%減（2005 年度比 25.4%減）の水準にする」ことを目指し、武蔵野市が低炭素モデル地域となるよう、環境にやさしい行動を働きかけていく。

(2) 地域力の向上

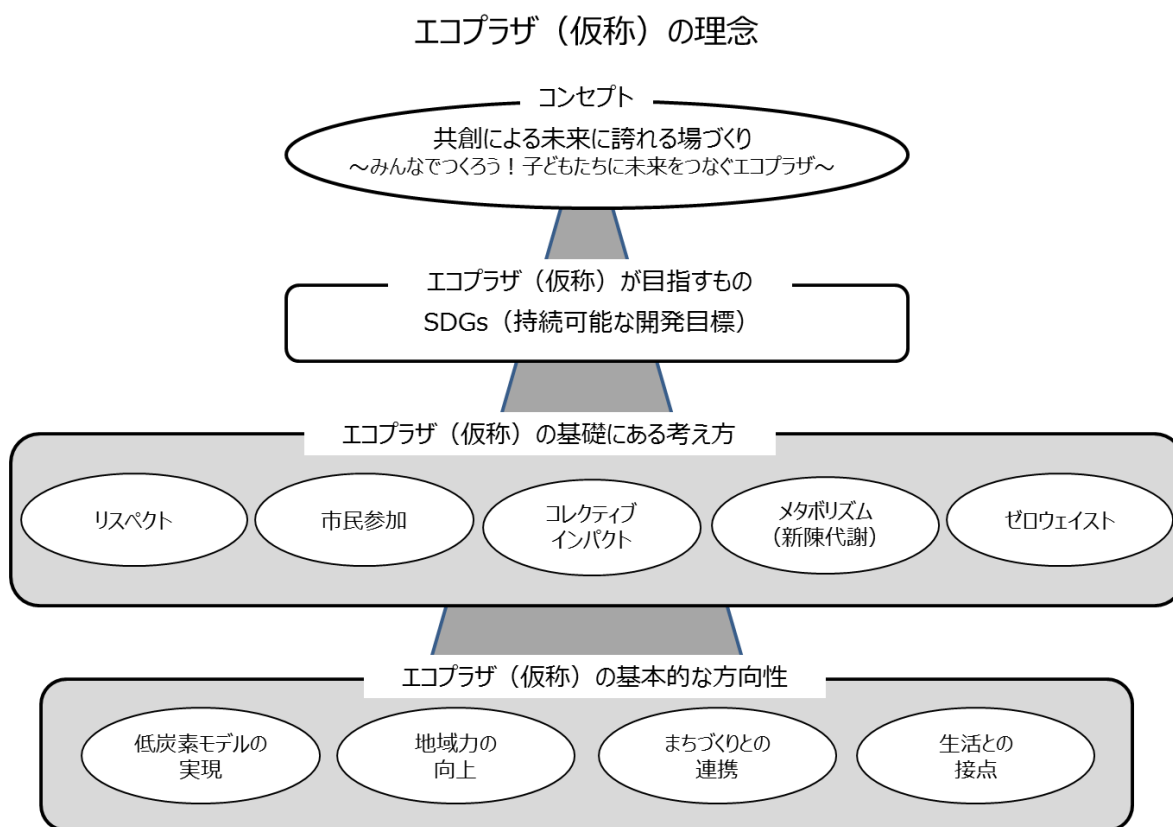
エコプラザ（仮称）の活動を出発点として、近隣、団地、学校、コミュニティ、商店街など様々な単位で、みんなが環境のことを考え、行動する地域づくりを広めていく。そして、地域の取り組みをつなぎ、広げて、地域の力をさらにまち全体に広めていく。

(3) まちづくりとの連携

エコプラザ（仮称）の施設は、緑や景観に配慮し、周辺環境と調和した施設とする。同時にバリアフリー化などを進めることにより、周辺地域と一体となって、より良いまちづくりを目指していく。

(4) 生活との接点

一人一人が地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の存在と本質を知る必要がある。そのためにはまず、日々の暮らしと環境の接点・つながりなどを知ることから始めて、それが共感や行動へとつながるよう促していく。



3 エコプラザ（仮称）のもつ機能

ア 取り扱う環境分野

エコプラザ（仮称）は、地球温暖化、ごみ・リサイクル、緑、水循環、資源循環・エネルギー、生物多様性など、環境全般を視野に入れて事業を実施する場とする。

イ 利用対象者

エコプラザ（仮称）が想定する利用者は、すべての個人、NPO 等の団体、事業者であり、あらゆる年齢層を対象とする。

とくに子ども同士、親子連れなど、子どもが来やすい場、何度も来たくなる場にしていく。また、環境に高い関心のある人だけではなく、環境について行動、学習したいがきっかけがつかめない人、環境への関心がまだ低い人などが、気軽に来ることができる場にする。

ウ 機能

(1) 情報収集・情報伝達

① 専門的・客観的な情報

個人レベルでは、大量に流通する環境情報の中から、最新で客観性のある情報を見分けることは難しい。エコプラザ（仮称）は、最新の専門的で正確な情報が得られる場にする。

② アーカイブ

エコプラザ（仮称）では、多様な事業（イベント、展示、講座等）が展開していく。それらの事業の結果のほか、企画、運営、広報、人脈等の情報をアーカイブ化して保管する。アーカイブは公開し、新たに事業を実施する際に、利用できるようにする。

③ 情報の伝達

一個人、一団体では、外部に情報を伝える手段やノウハウがまだ少ない。エコプラザ（仮称）自体が効果的な情報伝達を行うとともに、情報の伝え方について相談でき、ノウハウが得られる場にする。

(2) 学ぶ・学び合う

① 展示

エコプラザ（仮称）に偶然立ち寄った人でも、その人の目が向き、環境について興味、関心、疑問、好奇心を持てる、環境への入口となるような展示が常に必要である。展示は、文字情報だけではなく、数値等の見える化、立体的な展示による視覚への訴え、生態系の再現などを行うことで、エコプラザ（仮称）を、人の実感、共感につながるような展示に出会える場にする。

② 参加・体験

環境に対する考え方を自分のものとするためには、自ら能動的に参加する態度、自分の身体による体験が重要である。エコプラザ（仮称）は、進んで参加したくなる魅力的なプログラム、自らの身体で感じることでできるプログラム、設備をもつ場にする。

③ 行動・活動

SDGs を実現していくためには、一人一人（個人、NPO、事業者等）が行動し、自分の考えを表現していく必要がある。エコプラザ（仮称）は、一人一人が学び合い、その思いを行動・地域活動につなげていく場である。また、エコプラザ（仮称）という場所に加えて、地域にも出て、その場づくりを行う。

④ 探究・創造

一人一人が環境問題を考え、その答えだけを求めるのではなく、考える過程を楽しむ探究心を育てていく。エコプラザ（仮称）は、このような探究の場である。

また、環境に対する柔軟な考え方は、新しい価値を生み出すことができる。例えば、古い粗大ごみは、その古さを活かし、用途を変えて、新しい価値を持つ品物となり得る。生ごみから作った堆肥は、作物に付加価値を与えることができ。エコプラザ（仮称）は、このような新しい価値を生み出す場にする。

⑤ ESD

エコプラザ（仮称）のもつ機能は、ESD で求められている「持続可能な社会で大切なことの理解」と「問題解決に必要な能力・態度を身に付ける」ことに立脚したものにする。

<ESD(Education for Sustainable Development)>

ESD とは、「一人一人が世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」をいいます。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。

A. 日々の取組を ESD の視点でとらえる（持続可能な社会で大切なことを理解する）

【取組の 6 つの視点】

課題の構造に関する概念：①多様性、②相互性、③有限性

課題解決に向けた行動が備えるべき要素に関する概念：④公平性、⑤連携性、⑥責任性

B. 日々の取組を ESD の視点で工夫する（問題解決に必要な能力・態度を身に付ける）

【取組の 7 つの工夫】

①進んで参加する態度、②つながりを尊重する態度、③他者と協力する態度、④コミュニケーションを行う力、⑤多面的、⑥総合的に考える力、⑦未来像を予測して計画を立てる力・批判的に考える力

※出典：環境省ホームページ「ESD って何だろう？」（一部改変）

(3) つなぐ

① 環境分野をつなぐ

環境の問題は、一つの分野を深く知り、考えていくと、他の分野との関係に気づき、関心の幅が広がってくる。その一方、他の分野で活動する人、団体等との関わりは決して多くない。分野をこえて連携することができれば、新しい活動が生まれる可能性が大きくなる。エコプラザ（仮称）は、環境の分野をこえて、情報、活動がつながる場にする。

② 人と人をつなぐ

環境に関する活動は、一人、一団体だけでなく、様々な人や団体と対話することにより、その幅を広げることができる。エコプラザ（仮称）は、人や団体等が自由に集まり、出会い、交流することができる場であり、新たなつながりが得られる場にする。

③ 世代をつなぐ

環境にやさしい生活を実現するためには、伝統的な知恵が大切であり、次の世代につないでいく必要がある。また、大人が子どもの感性、発想から教わることも多い。エコプラザ（仮称）は、世代間交流ができる場である。

(4) 育てる

① 環境への興味を育てる

環境にやさしい地域をつくっていくためには、まず一人一人が環境に興味をもつことが第一歩になる。そして、その第一歩は子どものときに踏み出してほしい。エコプラザ（仮称）は、お腹に子どものいる母親、小さな親子連れ、子ども同士などが、最初は環境に関心がなくても来たくなる、気軽に來ることができる、集まることができる場にする。そして小さな環境への興味をより大きく、幅広く育てていく場にする。

② 活動を育てる

一人一人が環境問題を知り、知識を深めていくことは大変重要であるが、それを具体的な活動につなげていくことも重要である。活動というかたちにするためには、環境に関する知識とともに、活動の立ち上げ、継続に関するノウハウが必要になる。エコプラザ（仮称）は、地域における環境活動の担い手を育てる場にする。

(5) 支える

① 相談

環境のことを考えると、「これはなぜなのか」、「何かおかしいのでは」、「何とかしたい」、「何かしたいがどうしたらよいのか分からない」といった「モヤモヤ」した気持ちになることがある。この気持ちを誰かに話したい、誰かに受け止めてもらいたい、誰かにアドバイスしてもらいたい。エコプラザ（仮称）は、こういった「モヤモヤ」した気持ちを表現でき、相談でき、次のステップにつなげるきっかけとなる場にする。

② 支援

環境活動に取り組むためには、活動場所、資金、広報活動など、さまざまな課題が生まれてくる。エコプラザ（仮称）は、このような課題を解決するために相談ができ、具体的な支援制度をコーディネートするなど、地域の環境活動に対する支援を行う場にする。

エ 空間利用

(1) 空間利用の検討について

エコプラザ（仮称）の空間利用については、市民会議において各委員が3つのグループに分かれ、グループワーク形式でアイデアを出し合った。空間利用の内容については、結論を示すのではなく、各グループで出された意見を以下に示すかたちとする。

※ 資料編2～検討経過 オ 検討市民会議資料 (13) 第13回 資料1-1～3を参照

(2) 基本的な考え方

① 武蔵野クリーンセンターの歴史を伝える

旧武蔵野クリーンセンターには、武蔵野市のごみ問題の歴史、武蔵野市の市民参加の歴史が詰まっている。この歴史を抽象的な理念として残すだけでなく、エコプラザ（仮称）の施設という「形」で残すことで、未来に環境の大切さを伝えていく。

② 資源を無駄にしない

旧武蔵野クリーンセンターは、使用年数としては、建築物としてまだ使用に耐えうる。エコプラザ（仮称）の考え方の基礎では「ゼロウェイスト」を掲げている。旧武蔵野クリーンセンターの建物をリニューアルして使用することにより、ごみを出さない、資源を大切にす、という考え方を表す。

③ プラットホーム空間の活用

プラットホームは、旧武蔵野クリーンセンターのごみ処理の現場をそのまま残す、エコプラザ（仮称）にとって重要な空間である。また、建物としてみても、幅54m×奥行15m×高さ8mという市内でも稀な大空間である。この大空間を活用して、エコプラザ（仮称）の個性と機能を生かす。

④ 対話がすすむ仕掛けづくり

エコプラザ（仮称）では、様々な人が交流し、そこから対話が生まれ、環境行動につながっていく。このため、エコプラザ（仮称）は、話題、設備、イベントなど人が集い、対話がすすむような仕掛けがある空間にする。

⑤ 自由な用途に使える

エコという考え方は、クッキング、学習など多様な活動とつなげることができる。エコプラザ（仮称）は、エコを懐広くとらえて、用途を限定しすぎない、自由に使える空間にする。

(2) プラットホーム

① 高さを利用する

- ダイナミックな展示、高さのある立体的な展示物
- 移動式クレーンを設置し、天井に吊るす、イベントで使った物を空中に収納
- 参加型で大型の展示
- ハンモック

② 広さを利用する

○イベントスペース	・ イベント（コンサート、寝泊りイベント、キャンプ、保育園・幼稚園の発表会、大きな巻物＝ビッグドロー） ・ スポーツ（フットサル、カーリング、アーチェリー） ・ 趣味（ドッグラン、書道、紙飛行機、ヨガ）
○スクリーン・音響設備	・ パブリックビューイング
○展示	・ 動く展示 ・ 環境団体の PR パネル、イベント活動紹介 ・ 水やエネルギー循環を表す展示
○発電体験	・ 手回し体験、自転車発電、足踏み発電
○ものづくりワーキングスペース	・ 工房、機械、道具、道具の電源 ・ 日替わりワークショップ ・ イベントワークショップ（週替わり、月替わり、テーマ別）
○アーティストインレジデンス	・ 製作工程を展示しながらギャラリーとして見せる

③ 壁面を利用する

○投入口にクライミングウォール	・ ボルダリング
○素材のストック棚	・ 廃材を素材へ活用 ・ 美しくストックする、素材を分類、色分け、展示して見せる
○ストックヤード	・ ボタン、ハギレ、リボン、ビーズ、おもちゃのかえっこ
○プロジェクションマッピング	・ 壁面の旧ピット投入口に上映

④ 柔軟性・可動性をもたせる

- 可動式芝生で子どもが遊べる、ハイハイできる
- たたんで収納できる可動式観客席
- レイアウトを動く家具で仕切り、常設スペースとイベントスペースに使える軽いレイアウト

⑤ 旧武蔵野クリーンセンターの歴史を生かす

- そのままの状態でレトロ風の雰囲気を生かす
- 古さ、伝統、重み、頑丈さを大事にする

(3) 旧事務所棟

① 情報を得る・発信する

○図書スペース	・専門書、マニアックな写真集を揃える ・本を読める場所、靴を脱いで子どもと一緒に本を読める場所
○アーカイブ	・エコプラザ（仮称）での活動記録 ・団体の資料
○情報発信	・市民団体の展示 ・コピー、印刷、製本ができる ・エコボ（譲りたいもの、譲ってほしいものを掲示） ・多摩産材でウッドスタート ・カーボンマイナスモデル住宅、マンションで可能な高断熱化

② 相談ができる

○聴く耳をもつ人と相談できる
○人が集い、話し合い、相談できる
○もやもやした気持ちを共有し、話し合い、解決できる
○キッチン併設し、お茶を飲みながら話せる、相談できる

③ 交流が生まれる

○エコカフェで人と人の交流、世代間の交流
○授乳スペース、託児スペースを設けて親子が来やすい場に
○キッチンを設置して、みんなで食事、エコクッキング
○ちょっとお茶が飲めるカフェ

④ 体験・学習ができる

○ものづくり	・ミシンの貸出、3Dプリンタ ・ものづくりイベント
○温室（風除け室）	・リビングマシン ・テラリウム、アクアリウム
○実験・観察	・顕微鏡で温室の植物を観察

⑤ 起業支援

○1 day キッチン、1 day サロン
○チャレンジショップ

⑥ 施設の管理

○受付
○スタッフルーム、行政スペース
○ストックヤード、バックヤード
○余白の空間

(4) 屋外・周辺

① 屋外全体

- 武蔵野クリーンセンターと合った外観（ルーバー）で、つながりをもたせる。
- 外観にイメージカラーを使う
- 入口（西側）から芝生広場をつなぐ「緑の軸」を建物内に通す
- 人を引き込むデザインと仕掛けづくり

② 武蔵野クリーンセンター側（東側）屋外

○入口	・入ってみたいになる、目立つ入口へのアプローチ ・入口（東西）に大きなひさし
○デッキ （ウッドデッキ）	・お茶が飲める場所 ・アウトドアキッチン、ピザ窯 ・つる性植物、縁側、風除け、パーゴラ ・廃材を使った建具 ・太陽光発電（壁面または地上で少し角度をつける）、太陽光パネルの説明 ・ソーラーシェアリング
○プロジェクションマッピング	・芝生広場側から観る

③ 広場

○芝生広場	・ラボックのバラなど、いろいろな植栽、 ・芝生広場とエコプラザ（仮称）のつながりをもたせる
○どんぐり広場、雑木林	・どんぐり拾いができる ・間伐材を薪にしてピザ窯、アウトドアキッチン

④ 周辺設備

- ラボックの風車の復活
- 透明の雨樋で水力発電、雨水タンク
- 雨水を貯めてレインガーデン、水生植物
- 太陽光パネルの角度、方向を変えて発電量の変化を実験できる
- 災害用トイレ
- 動物を飼う、植物を育てる（ハーブ畑）
- 中高生の利用に対応する駐輪スペースの確保
- 周辺施設（市役所、テニスコート、野球場等）の利用者が訪れやすい動線の確保
- 運動広場との間に高垣、雑木林をつくる
- 椿の下枝を切って道路からの見通しを確保する

オ プログラムと利用空間、運営主体者イメージ

エコプラザ（仮称）のプログラムと利用空間、運営主体者イメージの検討については、空間利用と同様に市民会議において各委員が3つのグループに分かれ、グループワーク形式でアイデアを出し合った。空間利用のグループワークでの議論を踏まえ、「環境テーマ」、「伝えたいこと（例）」、「伝えるためのプログラム（例）」、「主な利用空間」、「顔が見える運営に必要な要素（例）」の項目から具体的なプログラム、利用空間、運営主体者などの関係性について議論を行った。結論を示すのではなく、各グループで出された意見を以下に示すかたちとする。

環境テーマ	伝えたいこと（例）	伝えるためのプログラム（例）	主な利用空間	顔が見える運営に必要な要素（例）
全般②	全てのプログラムを武蔵野らしくする。	作戦会議	エコカフェ スタディールーム	アート展開とプロセスデザイン デザインプロ集団②
全体①	広い視野で“ワケ”を知る テーマの組み合わせ 気づき、つながり、広がり、循環 驚きと“なぜ”という疑問	体験、連続講座、フィールドワーク ワークショップ 高校生などに向けた科学的な学び、実験	エコカフェ スタディールーム ものづくり工房	コーディネート力 コミュニケーション力 大学・企業・農家など様々な方を まとめる力 フットワークの良さ
環境全般 ①	市内だけでなく、他市、地域、山などといった広域・流域との連携	水と緑の研究会 山梨などの水源巡り 他自治体と連携した講座（間伐材・森の話を聞ける講座など） 千川上水と五日市街道の雑木林を歩く	エコカフェ ↓ フィールドワーク	アーティスト性、学生 専門家、企業タイアップ②
全般③	『1人で悩まないで』 例えば、すてたいけどすてられない物などの悩みを他者と共有し、解決の糸口をつかんだり、共有することで新たな活動を生み出す。	もやもやカフェ	フリースペース または エコカフェ (仕切りのない空間)	
全般③	『専門的な環境の基礎知識を学ぶ』 SDGs など、企業でも環境に関する知識が求められている。働き方改革で、仕事以外の時間の確保がしやすくなってきていることも踏まえ、社会人に環境の基礎知識を伝える。	大人（特に文系）のための環境連続講座（オープンカレッジ的なもの）	エコカフェ スタディールーム	
全般③	『地球視点』 普段は自分の身の周りのことしか見えないが、ものがどこからくるのか、産地の環境（自然環境、労働環境等）など地球規模の視点で生活を見直す。	みんなで展示をつくる 子ども、大人、企業、専門家など 色々なレベルの展示 親子で夏休みの宿題もいいのかも？	フリースペース	

環境テーマ	伝えたいこと（例）	伝えるためのプログラム（例）	主な利用空間	顔が見える運営に必要な要素（例）
ごみ・資源 食品ロス①	ごみは資源になる 分別は良い資源にするため 循環させることができること 食べるものの大切さ	もったいないプロジェクト ごみの展開・分別調査 バイオマス研究、エネルギーづくり たい肥化と野菜づくり 手打ちそばができるまでを知る（作る大変さを知るため）	相談コーナー プラットホーム クリーンセンター屋上 ベジタブルガーデン キッチン	● アイディアを形に仕向けるファシリテーター① ● 支配人を置く③ 【支配人の人物像】 ・フットワークが軽い人 ・地域とつながれる人 ・まきこみ力のある人 ・聴く耳をもつ人 ・出てきたアイディアを形にできる人 ・直営（囑託でも） ● 企業からの出向先③ ● こんなスタッフがいるとよい③ ・専門的な知識がある（適確に相談窓口を案内してくれる） ・コーディネーター（3人以上必要） ・おしゃべりなおばさん（交流を促す） ・外へつないでくれる（交流を促す） ・SNSをマメに更新する（情報発信）
ごみ・資源 ②	気軽に楽しみながらできる！	生ごみ処理のレクチャー	エコカフェ	
ごみ・資源 ②		廃材の提供 小学校の図工の授業では、廃材を工作の材料にしているため、教材として提供する。	ものづくり工房	
ごみ③	『もったいない精神』 使い捨てしない、よい物を長く大切に使う。	直し方を学ぶ、市民同士教え合う。 （もくもくと作業するのではなく、交流がうまれる仕掛けが必要） ものづくり工房利用者講習会（工具の使い方などを学ぶ） 直すのに必要な部材（パーツ）のストック。 部材（パーツ）をストックするために、廃材を解体・分別する。 包丁研ぎができる。	ものづくり工房・ストックヤード	
食品ロス②	もったいない！ どうしたら食品ロスがなくなるか。	食べ物がえっこ 眠っている食材を持ち寄って、活用術を学んだり、ほしい人に提供したりする。	エコカフェ フリースペース	
農・食文化 からESD へ①	種まきから収穫まで体験することつながりを学ぶ 収穫したもので何ができるのか楽しみを知る 日本の発酵文化を知る（カビなど）	梅や夏みかんの収穫体験とシロップ・ジャム・酒づくり 地域にある食べ物のマップづくり 味噌玉づくり	エコカフェ・ものづくり工房（植栽に梅や夏みかんを植える→収穫→キッチンで調理、試食）	
緑・農地③	『農地の大切さ・おいしい食・地産地消』 法制度の影響もあり、農地の宅地化がますます進むことが懸念されるため、農地を保全するために、農地の大切さを伝えていく。	地元野菜直売所 まちなか農家プログラム（三鷹市） の武蔵野市版 エコクッキング 植物・野菜工場/水耕栽培の実験	エコカフェ（キッチン） フリースペース ものづくり工房	

環境テーマ	伝えたいこと（例）	伝えるためのプログラム（例）	主な利用空間	顔が見える運営に必要な要素（例）
水循環、 緑、水と文 化①	武蔵野市の成り立ち、江戸時代との比較 生命と水・命 地下水を飲んでいること、湧水がなくなるこ と	地図づくり、図鑑づくり クイズ、スタンプラリー 湧水巡り、井戸探検隊 水車の設置	フィールドワーク+プレ ストをエコカフェ （相談コーナー）で行 う	●運営の視点③ ソーシャルインパクト 市民生活への波及効果を踏まえて、定 量的に施設を評価、エコプラザ独自の目 標・指標を掲げる。 例えば・・・ ごみ減 → ごみ処理経費削減 元気な高齢者が増える → 医療費削 減 ●市民も運営側に③ 利用者と運営者を明確に区分せ ず、利用者も運営に携わり、施設に関わ れるような仕組みがあるとよい。 ●参考事例③ ・けやきコミセン だれでも（市民でなくても）参加できる。 だれかが何かをやりたいと言えば、とりあえ ずやってみることができる。 ・アーツ千代田 3331 地域となにかやることを条件に事業者を 公募しており、地域とよいつながりができて いる。
水循環②	雨を楽しむ。	雨とアート 防水スプレーで地面に絵を描き、水 をかけると絵が浮かび上がる。貯留 槽を見えるように設置し、貯めた水を 利用しても良い。	北側外部ヤード	
水循環②	浸水被害・対策	アスファルトや土、芝生など様々なも のに水をかけて、どれだけ水が浸透す るか実験する。	東側外部空間	
水循環②		雨水洗濯	芝生広場	
緑②	育てる喜び	シードバンク	ものづくり工房	
緑②	植物を知る 名前の由来や木の歴史など、ストーリーを 知る。	樹名板（多摩産材）→個人宅に も配布する。 名前の由来なども紹介する。	ものづくり工房	
緑②	武蔵野市民は緑が好き！	市民の森 庭の木を寄付する。 その木の歴史・ストーリーを伝える。	東側外部空間	
緑②	緑の循環 落葉・剪定枝の利用 （背景：落葉を気にして庭の木を切って しまう→活用できないか）	灰の研究所 落葉・枝の文化的利用（茶道で灰 を利用することなど）	ものづくり工房	
生物多様 性 地球温暖 化①	植生の違い、土の違い、外来種の多い現 状 なぜ外来種が問題になるのか 温暖化の影響と生物の関係（セミの羽化 が早いなど）	観察、採取、身近な発見→探求に つなげる エコツーリズム・ビオトープコンクール	クリーンセンターリサ イクルガーデン 芝生広場、フィールド ワーク	
生物多様 性③	『メダカを放流しないで』 家庭で飼育されているメダカの多くは外来 種である。外来生物を放ってはいけないこと を伝える。	家庭で飼育しきれなくなってしまったメ ダカなどを引き取る。 エコプラザに大きな水槽を置き、そこ に放し、欲しい人が持ち帰る。	東側外部空間	

環境テーマ	伝えたいこと（例）	伝えるためのプログラム（例）	主な利用空間	顔が見える運営に必要な要素（例）
エネルギー ×防災①	自然エネルギーと防災の視点 地産地消ができていない	太陽光街灯・自動販売機 太陽光パネルを防災の視点で設置 する	東側外部空間 屋上	
エネルギー ×住まい①	エコ・省エネとの関係	住宅の断熱材の展示	フリースペース	

4 エコプラザ（仮称）の管理運営

ア 運営形態

(1) 管理運営業務の全体像

エコプラザ（仮称）において想定される管理運営業務の全体像を、管理系業務と事業系業務に分けて、次のとおり整理した。

区分	内容	業務の例
管理系業務	全体調整	マネジメント、ファシリテート、会議体運営
	危機管理	日常点検、マニュアル整備、避難訓練、不審者対策、情報セキュリティ、救急救命講習、見守り
	その他	アーカイブ管理、専門性の確保、人材育成、情報伝達
	総務	個人情報管理、文書管理、システム管理、環境マネジメント、検証・評価
	労務	職員募集・登録・解除、出退勤・シフト管理、賃金等支払い業務
	財務	事業計画、予算、事業報告、決算、予算執行・管理、備品等管理、資金の確保
	建物・設備の維持管理	保守点検、修繕、安全対策、警備、清掃
	窓口	受付、コンシェルジュ、入退室管理、来館者数管理
	案内	施設見学・視察対応、武蔵野クリーンセンターとの相互案内、展示物の解説
	利用申請・予約	部屋貸し、見学・視察受付、講座等プログラム、出前講座、講師派遣、図書・資料・教材等
事業系業務	情報の伝達	情報発信、情報収集
	展示	常設展示、企画展示、環境配慮技術・設備の解説、制作物の掲示、補修等の実演、廃材・素材の収集・陳列・提供・販売
	参加、体験	イベント、講演会、講座等日常プログラム、出前講座・出張イベント
	探究、行動、活動	調べ学習、相談、プロジェクト、市民提案事業、ボランティア・講師の養成・研修・勉強会、活動支援、アーカイブ
	連携	武蔵野クリーンセンター、学校教育、地域資源の発掘・活用、コーディネート・マッチング、場づくり、ネットワーク化、情報共有・意見交換の場、広域連携、多世代交流

(2) 運営者

エコプラザ（仮称）の運営は、将来的には行政の関与する範囲を減らし、独立性、独自性のある事業の実施が可能な運営形態を目指す必要がある。しかし、現在の状況を考慮すると、開設当初から、完全に独立した運営形態をとるのは難しいと考えられる。

このため、5年間を目途に過渡的な運営体制を採用する。この体制は、市の直営体制と個別の事業委託、市民参加を組み合わせたものである。その間に事業の安定化・ノウハウの蓄積、事業に関わる人材の育成等を進め、将来の運営体制のあり方を検討する。そして、5年後には新たな運営形態を導入する。この間の運営者を業務別に示す。

年度	運営形態の 検討等	管理系業務				事業系業務
		全体調整 危機管理 そ の 他	総 務 労 務 財 務	建物・設備の 維持管理	窓 口 案 内 利用申請・予 約	
2020	開設	市 ※市がもつ 連携力を用 いる	市 ※市がもつ 経験・スキル を用いる	市 ※一部専門 事業者に委 託	利用者から 顔が見える 運営者	利用者から 顔が見える 運営者
2021	事業安定化					
2022	人材育成					
2023	新たな運営					
2024	形態の検討					
2025	新たな運営 形態に移行	全業務を担う運営者 (市独自の新たな運営手法、指定管理者等)				

また、運営者それぞれの特徴は次のとおりである。

市	利用者から顔が見える運営者 全業務を担う運営者
- 市の方針を反映できる - 学校など市の事業と連携しやすい	- 休日開館や時間延長などサービスの向上を図りやすい - ネットワーク・人脈を生かした広域的な連携や多様な事業展開が可能である

イ マネジメント

(1) 運営者の資質

エコプラザ（仮称）の運営に携わる者には、施設の目的に合った資質が求められる。中でもとくに次の資質は重要である。

① お互いに顔が見える関係の構築

エコプラザ（仮称）においては、利用者と運営者の信頼関係が不可欠である。利用者との信頼関係を築くためには、普段から個性の見える一人の人間として利用者に接し、お互いが顔なじみとなるような関係を築くことができる資質が必要である。

② しっかりと耳を傾けて聴く姿勢

エコプラザ（仮称）の重要な機能として、利用者からの環境問題や環境活動に関する質問、意見、相談に対応することがある。このときに、しっかりと利用者に寄り添い、真摯に耳を傾ける姿勢をもって対応できる資質が必要である。

③ エコプラザ（仮称）の「顔」

上記2項目の資質を表す象徴として、施設の「顔」となる存在があることが望ましい。突然にそのような人材が現れるわけではないので、運営者一人一人が施設の「顔」となる意識をもつとともに、運営を続けていく中でそのような人材を発掘、育成していくことも必要である。

(2) 事業の評価

エコプラザ（仮称）のマネジメントとして、事業の計画、評価、見直しを継続していく必要がある。施設の評価基準の一つとして、来館者数が考えられる。もちろん事業内容により、来館者数で評価される場合もあり得る。しかし、総合的に評価するとき、必ずしも来館者数の多さだけが評価基準となるものではない。

このため、評価手法として、ポートフォリオの手法が考えられる。ポートフォリオは学習過程で生徒が作成した様々なものを保管するものを指す。エコプラザ（仮称）にこれを適用すると、ポートフォリオとは「個人の変容を質的に総合的に評価する」こととなる。来館者数など数の評価だけではなく、個人が変容して、それが行動につながる、ということの評価する。また、事業の記録を保管しておけば、誰でも検索して新しいアイデアにつなげることも可能になる。

(3) コミュニケーション

エコプラザ（仮称）の運営においては、市民、団体、事業者等との積極的なコミュニケーションが必要である。施設の開設までの期間もコミュニケーションに努め、その存在を広く知ってもらう必要がある。そのために、次のような事業が考えられる。

① エコプラザ（仮称）の名称公募

エコプラザ（仮称）の存在を周知するとともに、将来にわたって愛着を感じてもらえるよう、正式な名称を公募する。

② プレ事業

エコプラザ（仮称）の開設前から、プレ事業として、講演会、講座等を開催し、エコプラザ（仮称）に関わる人の輪を広げていく。

③ ニュースレター

エコプラザ（仮称）について市民に広く知ってもらえるよう、開設までは、ニュースレターを継続して発行する。

4 資料編 1 ～参考資料

ア SDGs

17 の国際目標

① 貧困	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
② 飢餓	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
③ 保健	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
④ 教育	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
⑤ ジェンダー	ジェンダー平等を達成し、すべての助成及び女兒の能力強化を行う。
⑥ 水・衛生	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
⑦ エネルギー	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
⑧ 成長・雇用	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。
⑨ イノベーション	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
⑩ 不平等	各国内及び各国間の不平等を是正する。
⑪ 都市	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
⑫ 生産・消費	持続可能な生産消費形態を確保する。
⑬ 気候変動	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
⑭ 海洋資源	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
⑮ 陸上資源	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
⑯ 平和	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
⑰ 実施手段	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

5 つの特徴

① 普遍性	先進国を含めて、全ての国が行動
② 包摂性	人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
③ 参画型	すべてのステークホルダーが役割を
④ 統合性	社会・経済・環境に統合的に取り組む
⑤ 透明性	定期的にフォローアップ

出典：「持続可能な開発目標（SDGs）について」（平成 30 年 5 月外務省資料）及び「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」（外務省仮訳）

エコプラザ(仮称) ニュースレター

平成30年7月発行

発行：武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議
事務局：武蔵野市環境部環境政策課
電話：0422-60-1841(直通)

Vol. 1



エコプラザ(仮称)って何？

エコプラザ(仮称)は、クリーンセンターの建て替えにあたり、学識経験者や周辺地域の方、関係市民団体などで構成された新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会において、エネルギー供給施設としてのエコセンター(新工場棟)とともに、ライフスタイルの変化やごみの減量を促す環境啓発の拠点として提案された施設です。

環境への配慮(=建物を壊さないでガレキを出さない)から、クリーンセンター敷地内の旧事務所棟と旧プラットフォームを改修して再利用するもので、平成32年度中の開設を目指しています。

平成29年2月には、同協議会から出された「エコプラザ(仮称)事業のあり方中間まとめ」を受けて、全市的な視点で施設のあり方について検討するエコプラザ(仮称)検討市民会議が立ち上がり、ごみ・資源、緑、水循環、エネルギーなど、多様な環境問題や環境の大切さをわかりやすく伝え、一人一人の環境にやさしい行動を促す施設を目指し、検討を進めています。

旧プラットフォームってどんなところ？

ごみ収集車がピットにごみを投入する場所だった旧プラットフォームは、おおよそ縦54m×横15m、高さ8mの屋根のある大空間です。これまでもこの場所を利用して、様々なイベントが開催されてきました。

今後、エコプラザ(仮称)の機能に合わせた空間の活用方法について検討していきます。



ごみ収集車がピットにごみを投入する様子

イベントの様子 →



武蔵野クリーンセンター配置図



エコプラザ（仮称）検討の歩み

年度	エコプラザ（仮称）に関連する委員会・計画等	エコプラザ（仮称）についての検討内容
平成21	○（仮称）新武蔵野グリーンセンター施設まちづくり検討委員会最終報告書 ○（仮称）新武蔵野グリーンセンター施設建設計画市の基本的な考え方	○普及啓発・情報発信機能の確保、リペア工房の併設
平成22・平成23	○新武蔵野グリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会提言 ○新武蔵野グリーンセンター（仮称）施設基本計画提言 ○新武蔵野グリーンセンター（仮称）施設基本計画	○環境への配慮から事務所棟・プラットホームを再利用 ○地球温暖化等を考えるエコプラザ（仮称）は、低炭素モデルの実現、地域力の向上、まちづくりとの連携を進める拠点として展開
平成24	○第二期新武蔵野グリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会報告書	○必要な視点：ライフスタイルを変える ごみ減量につなげる ○対象：広く全市民 ○機能：環境啓発、リユース・リサイクル、交流・ネットワーク・情報発信
	○第五期長期計画	○環境啓発の受発信機能、普及啓発の基盤整備
平成28	○第五期長期計画・調整計画	○既存施設の有効活用、地域の意見を聞きながら全市的な議論を行う
	○第三期新武蔵野グリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会報告書	○ごみの減量を市民に促す。それを創造的に 行う拠点
	○第四期新武蔵野グリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ	○機能：学び、創造、コミュニケーション ○広範な環境啓発機能の付加
	○有識者や環境市民団体、公募市民などで構成されたエコプラザ（仮称）検討市民会議を設置	○全市的な視点で施設のあり方について検討

これまでの検討内容から

平成29年2月に設置されたエコプラザ（仮称）検討市民会議では、機能や運営形態など、施設のあり方について検討を進めています。

これまで検討してきた内容の中から、今回はコンセプトと4つの基本方針をご紹介します。これらの基本方針をもとに、より良い成果を導き出すため、議論を重ねています。

これからも、ニュースレターやホームページなどを通じて、検討内容などをお知らせしていきます。

今後の予定

- 第14回会議 7月12日（木）市役所412会議室
- 第15回会議 8月1日（水）市役所111会議室
- *いずれも午後7時～午後9時まで
- *先着順で20名まで傍聴ができます。詳しくは市報、ホームページをご覧ください。

コンセプト

共創による未来に誇れる場づくりとしてのエコプラザ
みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ

4つの基本方針

- 低炭素モデルの実現**
地球温暖化がこれ以上進まないように、環境にやさしい行動をみんなに働きかけていく
- 地域力の向上**
環境のことをみんなで考える地域をつくり、まち全体に広めていく
- まちづくりとの連携**
緑や景観、バリアフリー化などにより、より良いまちづくりをめざしていく
- メタボリズム（＝新陳代謝）**
時代や環境、市民ニーズの変化などに対応しながら、施設も関わる人も、フレキシブルに学び合い、育ち続けていく

5 資料編 2 ～検討経過

ア 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議開催経過

イ 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議委員名簿

ウ 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議資料

- (1) 第 1 回
- (2) 第 2 回
- (3) 第 3 回
- (4) 第 4 回
- (5) 第 5 回
- (6) 第 6 回
- (7) 第 7 回
- (8) 第 8 回
- (9) 第 9 回
- (10) 第 10 回
- (11) 第 11 回
- (12) 第 12 回
- (13) 第 13 回
- (14) 第 14 回
- (15) 第 15 回
- (16) 第 16 回